

| | | | | | | | | |
|--|---|------|------|--|-------------------|----------|-----|----|
| 授業科目 | 発達心理学Ⅱ | | | | 単位 | 2 | | |
| 履 修 | 選択 | 関連資格 | | | ナンバリング | WE21407J | | |
| 開講年次 | 2 | 開講時期 | 前期 | 該当DP | DP1-1 DP1-2 DP3-1 | | | |
| 担当教員 | 杉本 有紗 | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>従来、発達心理学は児童心理学や青年心理学といった領域を中心に構成されており、成人期以降はそれ以上発達しない比較的長期にわたる高原状態と考えられてきた。しかし、近年の生涯発達心理学研究から、成人期以降にも様々な出来事に遭遇し、それが人間の発達に大きく影響を及ぼすことが明らかとなってきた。また、近年高齢化が進み、老いについての理解の重要性が指摘され、研究が進んできている。</p> <p>本講義では、発達心理学Ⅰの続きとして、青年期以降の発達を特に高齢期を中心に解説する。</p> <p>2021年度前期は、全14回を遠隔授業にて実施する。</p> | | | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達心理学の基礎概念、研究について説明できる。DP1-1、1-2 2. 青年期の発達(認知・人間関係・パーソナリティ)について説明できる。DP1-1、1-2 3. 社会における老いの問題について説明できる。DP1-1、1-2 4. 成人期以降のキャリア発達について説明できる。DP1-1、1-2 5. 成人期以降の発達(認知・人間関係・パーソナリティ)について説明できる。DP1-1、1-2 6. 高齢期に関係するところの問題について説明できる。DP1-1、1-2 7. 生涯発達とその課題について身近なものとして関心をもつことができる。DP3-1 | | | | | | | |
| 達成度評価 | | | | | | | | |
| 評価と評価割合／ 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 発表(口頭、プレゼンテーション) | レポート外の提出物 | その他 | 合計 | 備考 |
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 100 | |
| 知識・理解 (DP1-1) | 0 | | 30 | | | | 30 | |
| 知識・理解 (DP1-2) | 0 | | 42 | | | | 42 | |
| 知識・理解 (DP1-3) | | | | | | | | |
| 知識・理解 (DP1-4) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-1) | | | | | | | | |
| 思考・判断 (DP2-2) | | | | | | | | |
| 関心・意欲 (DP3-1) | | | 28 | | | | 28 | |
| 関心・意欲 (DP3-2) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-1) | | | | | | | | |
| 態度(DP4-2) | | | | | | | | |
| 態度 (DP4-3) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-1) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-2) | | | | | | | | |
| 技能・表現 (DP5-3) | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | |
| 理想的レベル | | | | 標準的なレベル | | | | |
| 標準的なレベルを全て達成した上で、現実場面での様々な問題を考える際に、これらの知識を応用できる。 | | | | <p>老いについて考え、関心を持つことができる。</p> <p>青年期、成人期以降の発達について身体機能、認知機能、パーソナリティ、人間関係等の諸相から説明することができる。</p> <p>高齢期のところの病気についての最新の知見を説明することができる。</p> <p>人生の終末期と死について考え、関心を持つことができる。</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | | | | | |

| 進行 | テーマ・講義内容 | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) | 予習・復習時間(分) |
|----|--|-------------|--------------------------------|------------|
| 1 | テーマ:オリエンテーション 授業の進め方について解説する。 テーマ:青年期・成人期・老年期の概観 この授業で扱う人生後半期の特徴について概観する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 | 20 |
| 2 | テーマ:青年期の特徴 思春期・青年期の生涯発達における位置づけや特徴について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 | 20 |
| 3 | テーマ:青年期の発達 青年期の認知発達・人間関係について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 4 | テーマ:社会と老い 社会の変化と「老い」のとらえ方について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 5 | テーマ:人の生涯発達 生涯発達心理学の基礎概念、研究モデルについて解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 6 | テーマ:キャリア発達 生涯キャリアと退職後の生きがいについて解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 7 | テーマ:情報処理機能の発達 感覚・脳・認知機能の加齢変化について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 8 | テーマ:記憶と学習の発達 記憶の加齢変化について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 9 | テーマ:知能の発達 知能・知恵・創造性の加齢変化について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 10 | テーマ:パーソナリティの発達 パーソナリティの変化と安定性について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 11 | テーマ:家族とのつながり 家族関係の変化、家族のサポート、高齢期の家族関係について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 12 | テーマ:他者との関わり合い 社会関係のとらえ方、高齢期の社会関係、高齢者の社会参加について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 13 | テーマ:高齢期のこころの病気 気分、意識の障害と認知症について解説する。 | 講義 小レポート | 復習:該当部分の復習 予習:次回該当部分を読んでくる。 | 30 |
| 14 | テーマ:老いて、生きる・まとめ 超高齢期の課題、家族介護の限界とコミュニティケアについて解説する。 | 講義 レポート | 復習:第1回から13回までの授業の復習 | 180 |
| 15 | | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|--|--|
| 19 | | | | |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | | | | |
| 理解に必要な予備知識や技能 | <p>特にありません。</p> <p>『発達心理学Ⅰ』は児童期より前の発達を中心に扱っています。</p> <p>この『発達心理学Ⅱ』では、青年期以降を扱います。</p> <p>併せて履修されると、生涯にわたる発達の理解が深まります。</p> | | | |
| テキスト | 『老いのこころ 加齢と成熟の発達心理学』佐藤眞一・高山緑・増本康平著 有斐閣 | | | |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | <p>『思春期・青年期 臨床心理学』伊藤美奈子編 朝倉書店</p> <p>『発達心理学下 青年・成人・老年期』山内光哉編 ナカニシヤ出版</p> <p>『発達心理学Ⅱ』無藤隆、子安増生編 東京大学出版会</p> <p>『エピソードでつかむ老年心理学』大川一郎、土田宣明、宇都宮博、日下菜穂子、奥村由美子編著 ミネルヴァ書房</p> <p>『最新老年心理学』松田修編著 株式会社ワールドプランニング</p> <p>『高齢期の心理と臨床心理学』下仲順子編 培風館</p> <p>『高齢者心理学』一番ヶ瀬康子監修 下仲順子・中里克治編著 建帛社</p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p> | | | |
| 授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ | <p>上記のテーマに関する雑誌や新聞記事、インターネット、テレビのニュースからの情報収集をしてみましょう。</p> <p>また、生涯発達の視点を踏まえた観察の眼を、自分より上の世代の行動や社会活動に向けてみてください。</p> | | | |
| 達成度評価に関するコメント | <p>発達心理学Ⅱで取り扱う知識は、DP1-1、1-2に分けることが困難である。したがって、レポートにおいては、行動目標1～6について確認し、DPについては総合して評価するものとする。</p> <p>小レポートでは、DP3-1を評価する。</p> | | | |

